

# 令和3年度コミュニティソーシャルワーク事業 実績報告書

## 1. 総合的福祉相談（詳細は別紙） （件）

	R3年度	R2年度
個別相談支援（延べ件数）	11,753	10,451

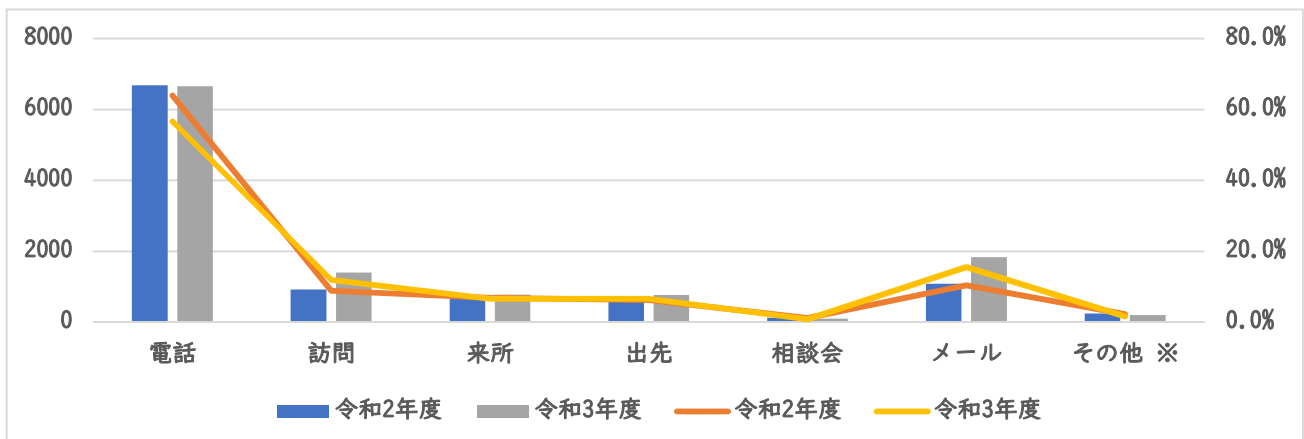
### （1）個別相談支援

- ・相談件数は11,753件となり、前年度より増加している。昨年度に引き続き、コロナ禍において生じた区民の不安や困りごとに対して、感染対策を十分に行いながら、相談支援活動を実施した。
- ・「電話」による相談件数はあまり変化なかったが、昨年度に比べて「訪問」による相談件数が増加した。「メール」が増加しているのは、ひきこもり状態にある本人（家族）や支援機関同士でのやり取り、地域活動に関する活動者や団体との連絡が多くなったことなどが理由である。
- ・昨年に比べ20代、40代、50代の相談件数が増加していること、相談内容として「居場所・社会との関わり」「収入・生活費・債務」「住まい・転居・立ち退き」などが上位に来ていることから、若年層やいわゆる「8050」の子ども世代における生活困窮や孤独・孤立の課題が深刻化していると考えられる。
- ・地域団体からの相談や支援件数については、昨年度に比べて2倍以上増加しており、オンラインの活用なども含めて、地域活動への取り組みや意識が高まってきている。

### <相談方法> （件）

	R3年度 (延べ件数)	R2年度 (延べ件数)
電話	6,653	6,684
訪問	1,402	926
来所	782	724
出先	777	652
相談会	101	132
メール	1,836	1,088
その他※	202	245
合計	11,753	10,451

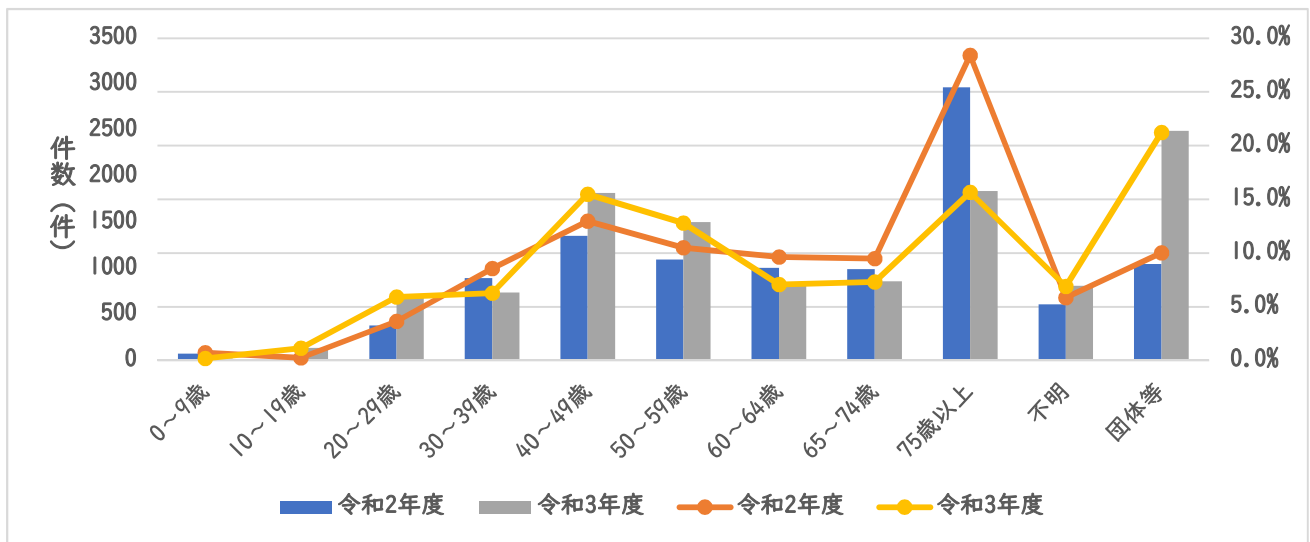
※「その他」（FAX、打合せ・会議等）



<対象者>

(件)

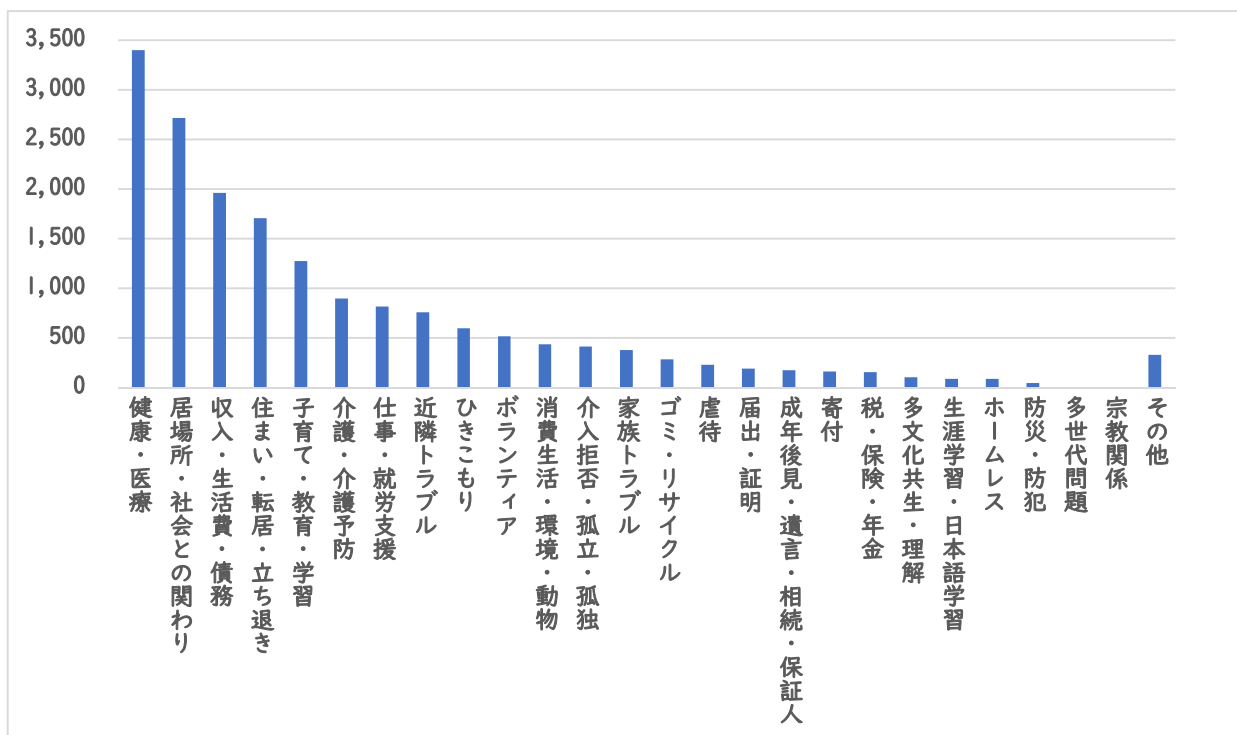
	R3年度 (延べ件数)	R2年度 (延べ件数)
0～9歳	23	75
10～19歳	136	25
20～29歳	694	380
30～39歳	737	895
40～49歳	1,821	1,355
50～59歳	1,504	1,098
60～64歳	830	1,006
65～74歳	861	991
75歳以上	1,840	2,968
年齢不明	812	611
団体等	2,495	1,047
合計	11,753	10,451



<相談内容> ※重複あり

(件)

内 容	件数	内 容	件数
健康・医療	3,398	ゴミ・リサイクル	282
居場所・社会との関わり	2,717	虐待	229
収入・生活費・債務	1,961	届出・証明	189
住まい・転居・立ち退き	1,705	成年後見・遺言・相続・保証人	174
子育て・教育・学習	1,275	寄付	161
介護・介護予防	896	税・保険・年金	153
仕事・就労支援	815	多文化共生・理解	104
近隣トラブル	758	生涯学習・日本語学習	87
ひきこもり	595	ホームレス	86
ボランティア	514	防災・防犯	46
消費生活・環境・動物	434	多世代問題	1
介入拒否・孤立・孤独	412	宗教関係	0
家族トラブル	377	その他	327
		合 計	17,696



(2) 相談会の開催

- ・区民ひろば 23 か所のほか、都営住宅集会室、介護予防センター、コミュニティカフェなどで開催。
- ・昨年度は、区民ひろばでの実施が難しい時期もあったが、本年度は感染対策に十分留意しながら、開催回数を増やすことができた。

	R3 年度		R2 年度	
	回数	相談者数	回数	相談者数
暮らしの何でも相談会	296 回	117 名	233 回	133 名

## 2. 地域支援活動／地域の実態把握／ネットワークづくり／福祉意識の醸成

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年度に引き続き、令和3年度の地域活動は開催中止や活動縮小が多かった。しかし、地域で新たな活動に取り組む区民や、地域活動を継続する活動者からの相談を受けることもあり、立ち上げ支援・運営支援を行うことによって、地域活動の活性化を図ることができた。
- ・地域課題（生活困窮やフードロスなど）について学ぶ機会を設けることで、既存の活動を発展させることができた。また、それらの活動を通じて、地域共生やSDGsなどの理念について地域住民と共有することができた。

### <地域支援活動実績> ※詳細は別紙に記載

【支援件数】88件

(件)

支援内容（重複あり）	件数
立ち上げ支援	8
運営・活動支援（既存の活動）	56
運営・活動支援（新たな取組・展開）	24
福祉意識の醸成・地域に向けた発信	49
ネットワークづくりの支援	25

### (1) 要援護家庭等の子どもへの学習支援活動

【回数・参加者人数】

学習会名	ちゅうりっぷ	にじいろ	あおぞら	合計	
開催回数（回）	4	0	10	14	
参加者 延人数 （名）	子ども	7	0	54	61
	ボランティア等	34	0	35	69
	小計	41	0	89	130

【対象】

ちゅうりっぷ学習会（東部地域）、にじいろ学習会・あおぞら学習会（西部地域）

※にじいろ学習会は、新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止。

※ちゅうりっぷ学習会は、オンライン(zoom)学習会を開催（8月、11月、2月）、対面での学習会を開催（3月）に開催。また、月1回「つばめ通信」を発行し、内容によって返信ハガキも同封して、ボランティアと子ども達の関係の継続に努めた（延べ396通、返信53通）。

【会場】

小学校(あおぞら学習会)、区民ひろば西巢鴨第一、オンライン

【連携・協力した機関等】

小学校、区民ひろば、民生児童委員協議会、地域住民、青少年育成委員会、大学、地域福祉サポーターなど



ちゅうりっぷ学習会  
約2年ぶりの対面での学習会

## (2) 大正大学社会福祉学科サービスラーニング（体験教育）への協力

○テーマ サービスラーニングを通して、コミュニティソーシャルワークについて考える

目的	サービスラーニングを通して、コミュニティソーシャルワークについて考える
内容	大正大学1年生に対し、オンライン及び大正大学での対面にて下記項目について講義した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域共生社会、CSW 事業に対する理解</li> <li>・区民ひろばの目的、機能の理解</li> <li>・担当圏域の歴史、社会資源に関する学習</li> <li>・地域探索の視点の確認</li> </ul>
圏域	4 圏域(東部、いけよんの郷、アトリエ村、西部)
実績	回数：5 回（大学もしくはオンラインでの講義） 参加者：62 名
成果	今年は新型コロナウイルス感染症の影響により、まち歩きのプログラムを作成したが中止となってしまったため、オンラインと大学での講義による実施となった。昨年度に引き続き、地域紹介のための動画などを用いて、区民ひろば職員などにもサービスラーニングに協力を依頼した。区民ひろば職員からも、ひろば事業が再開し始めていることから、次年度は以前のように地域に学生に出てきてほしいという声もあがっている。今後、区内の地域活動への学生参加のきっかけとして、サービスラーニングを有効に活用していきたい。

※サービスラーニングについて


1980 年からアメリカで始まった教育活動の一つであり「社会活動を通して市民性を育む学習」。地域への貢献を育み、地域の結びつきを強化するもの。

## (3) 学びあい・支えあいの地域活動



地域住民や民生児童委員、町会・自治会、福祉関係団体等が、小地域でネットワークを構築して、地域課題の共有や、解決に向けた取り組みを行うなど、共に学びあい・支えあう活動を展開した。

### ① きんぎょサロン（中央圏域）

目的	年齢・性別・国籍などに関係なく、どなたでも参加できる地域の居場所として位置づける。参加者が、特技を生かし活躍できる社会参加の場・社会貢献の場として、生きがいがづくりの一助を担う。
内容	1. 例年の活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・エプロンやポーチ等の制作、使用済み切手整理(豊島ボランティアセンターを通じて地域に還元)等の手仕事を通して、サロン参加者の地域交流、社会貢献を図る。</li> <li>・随時 CSW による相談支援を行うほかに、様々な関係機関と協力し、地域ニーズに対応した取り組みの創出を行う。</li> </ul> 2. 令和3年度の活動 (1) イベントなどが休止し地域との交流が減少した子どもたちへの応援企画 <ul style="list-style-type: none"> <li>・きんぎょサロンで手芸体験として、夏(コースター作り)・冬(クリスマスの飾り)を行った。</li> <li>・バザーやフードパントリーで、子ども達へバッグをプレゼントした。(計 53 枚)</li> </ul>

	<p>(2) 区民ひろば上池袋の協力で実施したバザー 区民ひろば上池袋主催の物販イベントで、購入者へきんぎょサロンのチラシを同封したマスクをプレゼント。区民ひろば上池袋のイベントの後方支援並びにきんぎょサロンの活動について周知することができた。</p> <p>(3) バリアフリーコンサート 毎年開催されているイベント「きんぎょサロンだよ全員集合」の代替企画として、プロのバイオリニストとピアニストを招いたコンサートを開催(定員 35 名・満員)。障害があってもなくても子どもでも大人でも楽しめるコンサートという想いを込めて「バリアフリーコンサート」という企画で実施した。(コロナの影響で子ども、障害の方は参加見合わせとなった)</p> <p>3. エコバック作成・寄付 きんぎょサロン開催時に、社協で行っているフードバンク事業について説明し、コロナ禍において食糧支援が必要であることや、フードロス削減について意見共有した結果、フードパントリーへのバッグの寄付へとつながった。 (地域共生や SDGs に寄与する活動)</p> 
<p>関係機関 連 携</p>	<p>区民ひろば上池袋 NPO 法人豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク 豊島ボランティアセンター 高齢者総合相談センター 暮らし・しごと相談支援センター、(あいおいニッセイ同和損保)</p>
<p>実 績</p>	<p>日時：毎週水曜日 14 時～16 時 会場：区民ひろば上池袋 回数：41 回 参加者数(延べ)：399 名</p>
<p>成 果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍、バザーやイベントの開催が難しい中、工夫を凝らし取り組むことができた。</li> <li>・「子どもたちのための地域貢献活動をしたい」というサロン参加者の方々の想いを受け、コロナ禍でも、対策を講じながら活動を継続し、5月にひろばが閉館する中でも、ウェス(消毒に使用する古布)を作成し保育園等へ寄付した他、イベントの代替企画についても協議・実施するなど、参加者の皆さん全員が特技を生かし活動を行える地域活動支援を行えた。</li> </ul>

## ② 麦の家やってみる会（中央圏域）




<p>目 的</p>	<p>地域住民が「麦の家」に集い、利用者・地域住民と一緒に制作した看板の補修や様々なものづくり、麦の家の作業手伝い等を行う。また、活動する中で地域住民と利用者の交流をはかり、障害のある方への理解を促すとともに、地域共生社会の実現を目指す。</p>
<p>内 容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍のため、例年通りの麦の家での看板製作やものづくりを行うことはできなかったが、ハートランドひだまり、フレイル対策センター「いーとこ」内カフェ、喫茶珈門、ブックカフェ里葉において、麦の家の作品を展示する「小さな街なか作品展」を実施した。</li> <li>・ブックカフェ里葉では、作品展示だけでなく、販売への協力も行う。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
<p>関係機関 連 携</p>	<p>民間のカフェ、フレイル対策センター内カフェ</p>
<p>実 績</p>	<p>ハートランドひだまり：10/5～12/27（好評につき延長）          いーとこカフェ：10/6～12/27          喫茶珈門：10/25～11/10（好評につき延長）          ブックカフェ里葉：10/29～12/4（物販も実施）</p>
<p>成 果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1か所に集まって活動ができない中、地域の喫茶店に出向いて作品展を開催することで、地域での新たなつながりを創出することができた。</li> <li>・コロナ禍により、障害者の作品の発表や販売が困難な状況が続く中で、機会の創出を行うことができた。</li> <li>・麦の家の作品の物販コーナーを里葉で実施。購入した区民から「障害者の作業所の作品を販売する機会もコロナで減ってしまっているとは知らなかったので、作品を購入することで応援したい」という声や、「作品作りの際に使ってほしい」と手作りのアームカバーを麦の家の利用者へプレゼントを頂くなど、地域住民への障害者理解の促進を図ることができた。</li> </ul>



(4) 「学生出前定期便」への支援（菊かおる園圏域）

目的	日常生活におけるちょっとした困りごとの手助けを行う中で、地域課題を知る。
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン会議、広報チラシ作成</li> <li>・前々年度定期便利用者へ、現状報告のお便りとアンケート調査を行う。</li> <li>・依頼を受け、学生が訪問。1回30分程度で対応可能な掃除や、荷物の移動など、高齢者の困りごとのお手伝いをする。</li> <li>・利用者への事後アンケート。</li> </ul>
関係機関・連携	大正大学、区民ひろば西巣鴨、区民ひろば清和、区民ひろば朝日、菊かおる園高齢者総合相談センター
実績	日時：月曜日 14時～16時、金曜日 11時～12時30分 活動場所：巣鴨・西巣鴨・大塚周辺地域 支援件数：15件 協力者数（延べ）：63名
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍において、どのように感染症対策をすれば事業実施できるか模索した。</li> <li>・また来年もお願いしたいと、感謝の言葉を受け取った。</li> </ul>

(5) ぷらっとみんなで話す会議の開催

目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動者が、現在の活動状況や各サロン等が抱えている課題の共有を行うことで、担い手の同士が横でつながり、コロナ禍での活動方法のヒントを得て、今後の活動に向けて考えるきっかけ作りをおこなう。</li> <li>・活動者を支援することで、地域住民の社会参加の場や社会的役割を發揮する機会の創出を行う。</li> </ul>
内容	<p><b>【第1回】</b></p> <p>(1) コロナ禍での取組について(活動紹介)            サロン寿、きんぎょサロン（動画にて活動紹介）、            みみずくサロン（さくら班班長の山本さんからのお話し）</p> <p>(2) 意見・情報交換</p> <p><b>【第2回】</b></p> <p>(1) ハンドマッサージ体験（活動プログラムの紹介）</p> <p>(2) 意見・情報交換</p>
	  



参加団体	サロン寿、ふれあいいきいきサロン、未来亭、としまコスモスの会、ちゃべる会、南長崎4丁目町会ふくみんの会、スキースカイ&キー、新大塚みんなの広場、丘の上サロン、友引の会、里葉、中山道サロン、サロンどんぐり、みみずくサロンさくら班、池西民児協あかね班、あおぞらBBカフェ
実績	参加者数（延べ）：29名 <b>【第1回】</b> 令和3年7月21日（水）14：00～15：30 区民ひろば富士見台 8名 令和3年7月30日（金）14：00～15：30 区民ひろば南大塚 6名 <b>【第2回】</b> 令和3年11月22日（月）13：00～15：00 区民ひろば南大塚 6名 令和3年11月29日（月）13：00～15：00 区民ひろば富士見台 9名
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他のサロン等の活動の内容を参加者同士知ることができた。</li> <li>・コロナ禍での活動のヒントを参加者同士共有できた。</li> <li>・参加者同士で新たな企画がうまれた。</li> <li>・活動者同士のつながりができたことで、お互いのサロンの見学につながった。</li> <li>・参加者のニーズ把握ができた（活動の休止によるフレイルや孤独感）。</li> <li>・ハイブリット式（第1回のみ）で行うことによって、コロナ禍での会の持ち方を検討できた。</li> </ul>

## （6）講演会の開催

テーマ	ひきこもり～子と家族を守るライフプラン～
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひきこもり状態の長期化及び高齢化による経済的な課題に着目し、ひきこもり状態にある子を支える家族の生活とお金の守り方、親亡き後も生きていくためのライフプラン（将来直面する問題、今から気を付け準備すべきこと、子どもと接する時の心がまえ等）について学ぶ。</li> <li>・豊島区内のひきこもり支援体制について紹介し、当事者またはその家族に情報提供を行い、課題を抱える当事者やその家族が孤立することを防ぐ。</li> </ul>
開催日時	令和4年3月2日（水）14：00～16：30
会場	としま区民センター403会議室
講師	特定非営利活動法人楽の会リーラ 理事 阿部 達明 氏
内容	1部 講演 2部 交流・情報交換会
参加者数	15名
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひきこもり状態にある本人や家族、関係者などの参加があり、子どもへの関わり方や親子関係などついて理解が深まった。また、講演会の満足度が高く、ニーズが高いことが分かった。以下、アンケート回答より。</li> <li>1部：大変良かった42%、良かった58%</li> <li>2部：大変良かった83%、良かった12%</li> <li>・CSWに相談の希望があるかどうかを確認する用紙を配付した。結果、4世帯よりCSWへの相談希望があり、支援につながった。</li> </ul>

### 3. 「福祉なんでも相談窓口地区連絡会」の開催

目 的	区内の 25 社会福祉法人の連携による「福祉なんでも相談窓口」事業において、窓口設置法人と 8 地区ごとに連絡会を実施。事業実施状況の確認の他、地域課題に関する情報交換などを行い、潜在的なニーズの掘り起こしや多職種・多機関のネットワークづくりを行った。
内 容	「福祉何でも相談窓口」実施状況、コロナ禍での取り組みに関する情報交換 他
実 績	回数：16 回 参加者数（延べ）：85 名（内、社協職員 31 名）
成 果	<ul style="list-style-type: none"><li>・ コロナ禍での各法人・窓口の近況報告・課題だけでなく、コロナ禍での工夫・アイデアについて情報共有することが出来た。</li><li>・ 生活困窮者の課題などを共有する中で、保育園でのフードドライブの実施につながった。</li></ul>

#### 4. 豊島区生活支援体制整備事業との連携

##### (1) 地域資源 (Ayamu) プロジェクトチームへの参画

目的	豊島区生活支援体制整備事業にて導入している地域資源データベースシステム「Ayamu」について、運用方法について関係機関で協議を行い、システムの利用を推進することにより、地域資源の有効活用を図ることを目的とする。
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Ayamu の運用に関すること（登録する情報やカテゴリ、情報の使用承諾、ルール等）</li> <li>・ Ayamu の活用状況等の情報交換</li> <li>・ 情報の定期更新</li> </ul>
関係機関連携	高齢者総合相談センター見守り支援事業担当、豊島区高齢者福祉課、高齢者の生活支援推進員（第1層・第2層）
実績	会場：としま区民センター会議室 回数：2回
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Ayamu 情報使用承諾書及び情報使用通知書を活動・サービス団体等から取得。</li> <li>・ 窓口に来所した地域住民のニーズに合わせ、Ayamu に登録している情報を提供した。</li> </ul>

##### (2) 高齢者の生活支援推進員（第2層生活支援 Co）との情報共有・協働

目的	令和3年度より、豊島区生活支援体制整備事業にて配置されている高齢者の生活支援推進員（第2層生活支援コーディネーター）による定例会に参加して、主に地域支援に関する情報共有、協働について協議する。
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ それぞれの活動状況の情報共有</li> <li>・ 地域情報、担い手、地域課題などの共有</li> <li>・ 地域資源開発に向けた協議</li> </ul>
関係機関連携	高齢者の生活支援推進員（第1層・第2層）、高齢者総合相談センター、見守り支援事業担当、豊島区高齢者福祉課
実績	実施圏域：5圏域（菊かおる園・東部、中央、ふくろうの杜、西部） 会場：区民センター、区民集会室、地域文化創造館など 回数：菊・東部（4回）、中央（6回）、ふくろうの杜（12回）、西部（8回）
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動状況について共有することで、高齢者の生活支援推進員について理解を深めることができた。</li> <li>・ 地域資源について、お互いの情報を共有することができた。</li> <li>・ 協働してお散歩MAPづくりを行うことにより、連携が深まった（ふくろうの杜圏域）。</li> </ul>

## 5. コロナ禍における取組み

### (1) 新型コロナウイルス感染症ワクチン接種予約支援

ワクチン接種の予約が困難な方等について、CSW による相談対応及び予約の支援を実施。電話相談や自宅訪問などにより、ワクチン接種予約等のサポートを行った。

【支援開始日】令和3年6月1日～

【相談延べ件数】240件

【予約代行件数】53件

### (2) 新型コロナウイルス感染症自宅療養者に向けた食糧等支援

新型コロナウイルスに感染または疑いにより、自宅療養を余儀なくされていて物資の調達が困難であった方へ、東京都の自宅療養者フォローアップセンターから物資が届くまでの間、食料品と日用品の配付支援を行った。(物資は豊島区が用意)

【支援開始日】令和3年8月25日～

【支援世帯数】221世帯

【配付数】396セット

### (3) 地域団体等との協働による取組み

#### ①外国人支援プロジェクト（フードパントリー+個別支援）への参画

内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊島区内での特例貸付申請者の約4割が外国人世帯であったことなどから、コロナ禍で困窮する外国人家庭への支援を行うために、公益社団法人シャンティ国際ボランティア会が内閣府の「休眠預金等活用事業」への応募。実行団体となり、令和3年5月より事業開始。社協内では、CSW、福祉包括化推進員、地域相談支援課長、共生社会推進・事業開発課長が参画。</li> <li>・フードパントリーを実施して、来場者への聞き取りによるニーズ把握を行い、必要に応じて生活支援や法的支援を行う。</li> </ul>
関係機関連携	公益社団法人シャンティ国際ボランティア会、弁護士法人東京パブリック法律事務所、認定NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク、NPO法人Mother's Tree Japan など
開催場所	区内公共施設、寺院・神社等の集会室など
CSWの関わり	フードパントリー来場者への聞き取り（インテーク・アセスメント）、支援調整会議への参加、継続的な生活支援（手続き支援、窓口同行など）
回 数	フードパントリー：14回 支援調整会議：15回
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区内に住む外国人世帯のニーズや地域生活課題を把握することができた。</li> <li>・外国人支援を得意とする団体や法的な支援を行うことができる弁護士等と連携して支援を実施することができたため、外国人世帯特有の課題の解決を図ることができた。また、通訳などのサポートを受けることができたため、スムーズに支援を行うことができた。</li> <li>・在留資格や言語等に起因する就労に関する課題について、協働してセミナーなどを実施することができた。</li> <li>・支援を通じて、外国人支援に関するネットワークが広がった。</li> </ul>

## ②食糧支援プロジェクトへの協力・相談支援

### ◆ライス！ナイス！プロジェクト

内 容	「『コロナに負けるな！』としま医療・福祉支援寄付金」を活用した、官民連携協働によるひとり親家庭に対する食料支援事業に協力。
主 催	豊島区、豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク
開催場所	区民ひろば、区役所本庁舎など
CSW の 関わり	企業からの寄付物品の仲介、提供作業時の人的協力
回 数	回数：2回 CSW 延べ参加人数：16名
成 果	対象者層（課題）の把握、プロジェクト協力者とネットワークの構築を図った。

### ◆としまフードサポートプロジェクト

内 容	新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う学校等の臨時休業、事業所の休業等により経済的影響を受けている就学援助受給世帯(区内在住者)の負担軽減の一助となることを目的とした食糧支援事業「としまフードサポート」に協力。また、課題把握や相談支援を行う（アウトリーチ）。
主 催	TOSHIMA TABLE
開催場所	区役所本庁舎、区民ひろばなど
CSW の関わり	運営に伴う物資の運搬、提供作業時の人的協力、支援制度の資料作成及び配布、相談対応
回 数	9回 CSW 延べ参加人数 63名
成 果	プロジェクト協力者とネットワークの構築を図るとともに、個別に相談対応を行うことができた。

## 6. 広報（事業認知度の向上及び活動の周知）

### （1）CSW 通信の発行

【発行回数】各圏域月1回（計96部）

#### 【成果】

- 各圏域において、定期的にCSW通信を発行、配布することにより、CSWの認知度向上を図ることができた。
- 配付・配架先を開拓することにより、CSWへの理解を促進するとともに、ネットワーク構築を行うことができた。
- 地域アセスメントによる情報を、紙面に掲載（地域活動の紹介など）することにより、地域活動支援や地域住民の福祉意識の醸成を図ることができた。

### （2）やさしい日本語版CSWリーフレットの作成・発行

コロナ禍において、外国人からの相談が増加していることから、CSW事業に関する「やさしい日本語版」のリーフレットを作成。作成にあたり、東京都及び一般財団法人東京都つながり創生財団による助言を受けた。

【発行】令和4年3月

【発行部数】1,000部

【配布先】CSW窓口、社協窓口など



## 7. 人材育成・スーパービジョン体制の充実

コミュニティソーシャルワーク実践の質の向上を図るために、職員間で実践上の課題共有や、解決策の検討などを行った。また、必要な知識等を得るために、内部研修を企画・実施した。

### （1）会議体等の実施

CSW会議：10回

事例検討会議：10回

スーパーバイザーによる指導・助言（共同研究）：7回

### （2）内部研修会の企画・実施

テーマ：CSWスキルアップ研修 ひきこもり支援編

目的：ひきこもりの本人や家族についての基本的なアセスメント方法や家族支援のあり方などについて学ぶ。また、ひきこもり支援について、具体的な事例をもとにワークを通してケースの見立てや支援方法などを学ぶ。

開催日：令和4年3月7日（木）

会場：としま区民センター6階会議室

講師：NPO法人KEJ全国ひきこもり家族会連合会 本部事務局長 上田理香氏